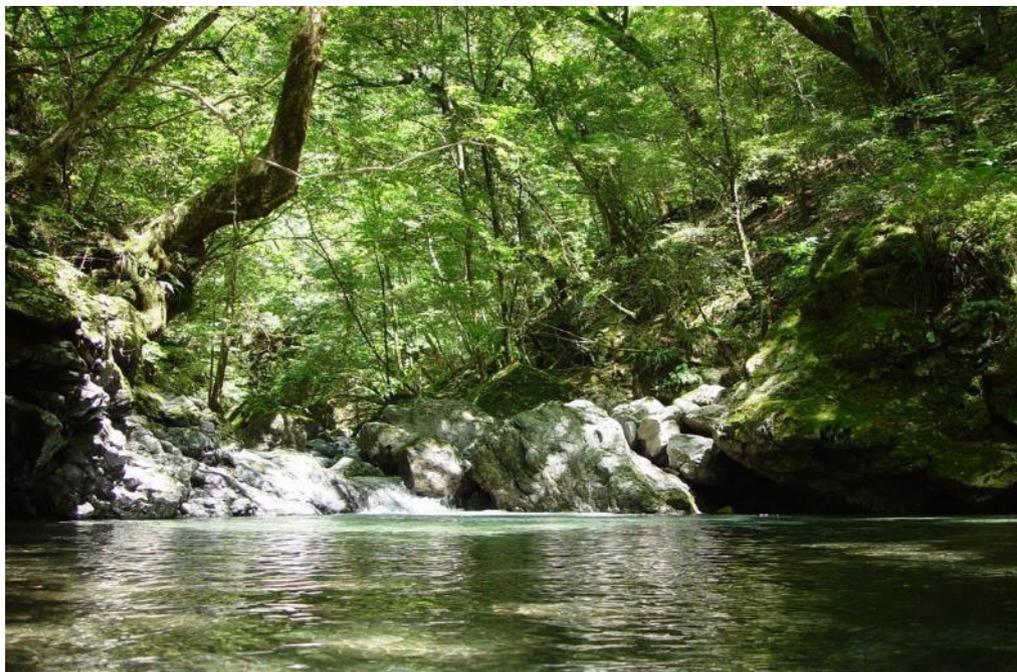


関西のインフラ強化を進める会 様 感謝!!



## 水源地の村づくり

～都市にはない豊かな暮らしを築くために～



奈良県川上村

令和7年4月22日(火)

川上村 栗山 忠昭



# 奈良県川上村の概要

## ◆ 位置・地形

- ・奈良県の南東部に位置
- ・面積 269.26km<sup>2</sup> ( **95** %が山林)
- ・吉野川 (紀の川) の 最源流 に位置

奈良県と和歌山県をまたぎ

和歌山の海へ注ぐ。136 km

## ◆ 歴史

- ・ 吉野林業発祥の地 (日本遺産に認定)
- ・ 南北朝時代、悲哀の歴史舞台に
- ・ 令和元年、「村制施行 **130** 周年」を迎えた (11/16【源流の日】  
…「日本記念日協会」に登録)

吉野林業に支えられ、穏やかな歴史を刻んできた

### ● 吉野川・紀の川流域



歴史の証人

(下多古村有林)

400年生の人工林

文化庁「ふるさと文化財の森」  
に選定

### 朝拝式

毎年2月5日に開催  
南北朝時代から続く儀式  
悲運の最期を遂げた自天王を  
偲び生前の武具を御神体として  
崇める儀式



# 奈良県川上村の概要

「村の宝」が急増中!!

## ◆人口

- ・ 1,156 人
- ・ 高齢化率 55.5 %

過疎、挑戦中

子ども(0~14歳)が  
5年間で 17%増

## ◆観光・交流

古くは大峯奥駈道の登り口として、近年は大台ヶ原への入口として様々な人が行き交う。  
昨今は、大滝ダム建設事業を機に“森と水”をキーワードに交流事業を促進している。

### 白川渡オートキャンプ場

河川敷に整備されたキャンプ場  
AC電源を完備し、炊事場は屋内  
家族連れを中心に盛況



### 匠の聚

芸術家が住みながら創作活動を行う。カフェスペースも併設。  
芸術にふれるイベント多数。



### 丹生川上神社上社

龍神“高麗大神”を祀る旧官幣  
大社。今年創祀1350年を迎える。  
神社境内でビアガーデンなど  
神社を身近に感じるイベント  
も多数実施



### レイクカヤック

おおたき龍神湖(大滝ダム湖)で行  
うカヤック。協力隊OB等が運営。  
静水面でのカヌーは初心者も体験  
でき、好評をはくす。





# 伊勢湾台風と大滝ダム

吉野林業に支えられ、穏やかな歴史を刻んでいた村が “一変”



1959年(昭和34年)9月26日  
伊勢湾台風が潮岬に上陸

被害状況

死者・行方不明者 5,098名(全国)  
72名(川上村)

全壊流失家屋 40,838棟  
半壊家屋 113,052棟

(参考)

東日本大震災  
死者・行方不明者 18,428名

阪神淡路大震災  
死者・行方不明者 6,437名

開発の波(水需要も…)は  
山村へも

## 日本地図から「村が消える!?!」

大迫ダム(農林水産省)

1954年着手  
1973年完成



農業用水  
供給

入之波集落を  
中心に水没  
(151世帯水没)

大滝ダム(国土交通省)

1962年着手  
2013年完成



洪水調節

村役場含め神社等  
村の中心部が水没  
(493世帯水没)

# その時、歴史が動いた

国家プロジェクト  
に翻弄

1960年 大滝ダム予備調査が始まる。

1962年 建設省（現：国土交通省）

奈良県和歌山県の要望を受け、大滝ダム建設の計画を発表

川上村議会での「大滝ダム反対」の決議や大滝ダム水没者対策組合連合会の結成

1973年 水源地域特別措置法の制定

## 苦悩の日々

1981年10月24日 大滝ダム建設着工同意に

関する覚書、確認書を締結

1998年 大滝ダム定礎式

2003年 大滝ダム試験湛水開始  
白屋地区にて亀裂が確認

→試験湛水中止

2013年 大滝ダム竣工式



約20年

約20年

約10年



# 大事な人との出会い

## 「ダムで栄えた村はない」への抗い

1980年代 地域づくりの言葉の誕生  
全国でも様々な取り組みがなされる

1986年 全国湖底サミットの開催  
第1回全日本そまびと選手権大会



転機

ダムを逆手にとる

長野県川上村 藤原忠彦さんとの出会い

1988年 全国川上サミット  
1990年 全国川上町村連絡協議会 発足  
東京事務所設置

1994年 第3次総合計画「吉野川源流物語」策定

1996年 「川上宣言」を全国に発信

1999年 吉野川源流-水源地の森 購入



# ダムもつくるが、村もつくる



# 大事な人との出会い

大滝ダム誌  
にも掲載

## 日本水フォーラム代表理事 **竹村公太郎氏の言葉**

(出典：平成17年公務員白書  
「ダム技術者の背中」)

建設省(現:国土交通省)に入省し、栃木県鬼怒川上流の川治ダムの現場に配属された。私は技術者として行政官として生涯の師たちと出会うことになった。ダム工事事務所の所長や課長は、いくつものダムを経験してきたダム建設のプロであった。私は懸命にダムの専門用語と技術と事業の進め方を先輩たちから学び取っていった。

彼らは酒にもめっぽう強かった。毎晩、愉快的酒の飲み方を学び、酒席の礼儀も学び、世の中の仕組みも学んだ。ところが、酒に強い所長や課長が深く酔う時があった。それは、水没者との会合から帰ってくる深夜であった。その会合から帰ってきた所長や課長が、酔いを醒まそうと、洗面所で冷たい水を飲んでいるつかれた背中をなんども目撃した。酒に強い先輩たちが、何故それほど深酔いしてしまうのか、不思議に感じていた。

ある夜、私はそのことを聞いた。

「地元の人と飲むのは、苦痛なのですか？」

所長は少し考えて、「苦痛じゃない。しかし、辛いよ」とぼつんと言った。

**人に寄り添う心**

「我々は水没者たちに、ダムの必要性を説明した。彼らはダムの必要性に納得して、補償金額にも合意した。代替地での新しい生活も次第に具体化してきて、未来の希望も見えてきた。でも、彼らは寂しいのだ。

**それは、自分たちの思い出が消えてしまう事だ。生まれた家、育った学校、遊んだ小川、初恋の丘。全ての思い出がダムの底に沈んでしまう。**国は水没者の家屋や土地には補償する。しかし、家族の思い出や村の思い出に補償はできない。その思い出の喪失を償うため、現場の我々が水没者の話を聞き、水没者の相談にのっている。」 という。

公共事業は公共性が高ければ高いほど、事業地の人々にとってメリットは少なくデメリットばかりだ。ダムがその良い例である。ダムの洪水効果や水道用水や発電の利益を受けるのは、下流の都市の人々である。それに対して、ダム水没地の人々は家屋、土地のみならず、自分たちの思い出を全て奪われてしまう。

**巨大な国家事業の公共性の前に、押しつぶされそうになる水没者。その一人一人の心情を支えるのが、ダム現場の技術者の役目となる。**その信頼を得るためには、自分自身の全人格を晒さなければならない、会合では酒も入り和やかに進む。しかし、心の緊張を弛緩させてはならない。

**ダム現場の技術者たちは、途方もなく豊かで、深く、強靱な人間性を要求されてしまうのだ。**

その後30年間以上、私は公共事業の行政で何度も何度も苦しい局面に立った。

その私を励ましてくれたのが、山奥のダム現場で、重い荷物を背負っていた先輩たちの後姿であった。



# 大事な人との出会い

## 源流に住むものの誇りと使命を決意！

- 平成8年に全国に向けて「川上宣言」を発信。

川上村の歩む未来を示す“**村是**”として村づくりの中心的存在



1996年8月1日、全国に「川上宣言」を発信しました。

- 私たち川上は、  
かけがえのない水がつくられる場に暮らすものとして、  
下流にはいつもきれいな水を流します。
- 私たち川上は、  
自然と一体となった産業を育て、山と水を守り、  
**都市にはない豊かな生活を築きます。**
- 私たち川上は、  
都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値に、  
ふれあってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- 私たち川上は、  
これから育つ子どもたちが、自然の生命の躍動に、  
すなおに感動できるような場をつくります。
- 私たち川上は、  
川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、  
すばらしい見本になるよう努めます。

早稲田大学 宮口侗迪教授が起草  
全国川上町村連絡協議会として発信

奈良県川上村では、水源地の村づくり  
のみちしるべに。

# 水源地の村づくり～樹と水と人の共生～

## ● 「水源地の村づくり＝樹と水と人の共生」を決意

- ✓ 平成6年 第3次総合計画「吉野川源流物語」を策定
- ✓ 平成8年 「川上宣言」を全国に発信 ⇒ SDGsの実現に寄与
- ✓ 平成11年 吉野川（紀の川）の源流に位置する  
**740haの原生林**を村が購入。**水源地の森**として保全
- ✓ 平成15年 和歌山市と「水源地保護に関する協定」締結  
**和歌山市民の森**の整備など持続的な交流を展開



## ● 想いは着実に下流、都市部にも伝わり

- ✓ 平成23年、**吉野川分水**でつながる大和平野から  
きれいな水への感謝の気持ちとして「**おかげ米**」が届く
- ✓ 平成26年「**全国豊かな海づくり大会**」にて  
**天皇皇后両陛下**（当時）が行幸啓されました。



## ～水のつながりプロジェクト～

都市部と水源地との交流で想いをつなぐ

小学生による田植・稲刈体験や川上村を訪れる源流体験を通じて、大和平野と川上村が交流することで「おかげ米」の双方の想いを継承。

大切な水を下流へ送る誇りと責任に気づききっかけ



● **流域の多様なキーパーソンと次世代につなげる(公益財団法人吉野川紀の川源流物語)**

- ✓ 平成14年、情報発信交流拠点として「森と水の源流館」開館
- ✓ 吉野川(紀の川)流域の14市町村と連携し事業を展開。
- ✓ 地域資源の「恵み」を教材として

「**ESD授業づくりセミナー**」を展開

奈良教育大学と協働。地域と学校をつなぎ、授業づくりで地域と人を元気に

● **「源流の危機、は国土の危機、であることを強く意識**

**全国源流の郷協議会 …平成17年発足**

- ✓ 「**源流白書**」を発刊し、源流の価値や重要性、維持を提言
- ✓ 「**源流基本法**」の制定を目指し共感いただく国会議員を中心に  
令和2年3月23日(大滝ダム7周年)

「**源流を守り、国土保全を推進する**」議員連盟が設立。



環境白書 (H30年版) に  
「流域圏の連携」掲載!



平成26年5月18日  
都内で発表!





# この10年、川上宣言が浸透した10年

2014年5月、日本創生会議で通称「増田レポート」が発表される。  
 「2040年までに全国の市町村の半数が消滅する可能性がある」とした衝撃的な内容。  
 奈良県川上村は、全国で2番目に減少率が大きいとされた。



危機感の共有と多様な努力

くらしの質向上

大滝ダム竣工

川上ニゴ作戦

全国豊かな海づくり大会

未来への風景づくり  
官民協働

くらし

かわかみらいふ  
コミュニティナース

ESD授業づくり  
セミナー

教育

住まい

源流を守り、国土保全  
を推進する議員連盟

重層的支援体制

協働推進

源流学（大学連携）

源流ツーリズム

子育て

オンラインコミュニティ  
かわかみらい  
奈良ダイアログ

かわかみ源流学園 開校

こども  
ど真ん中

2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 ⑩

仕事



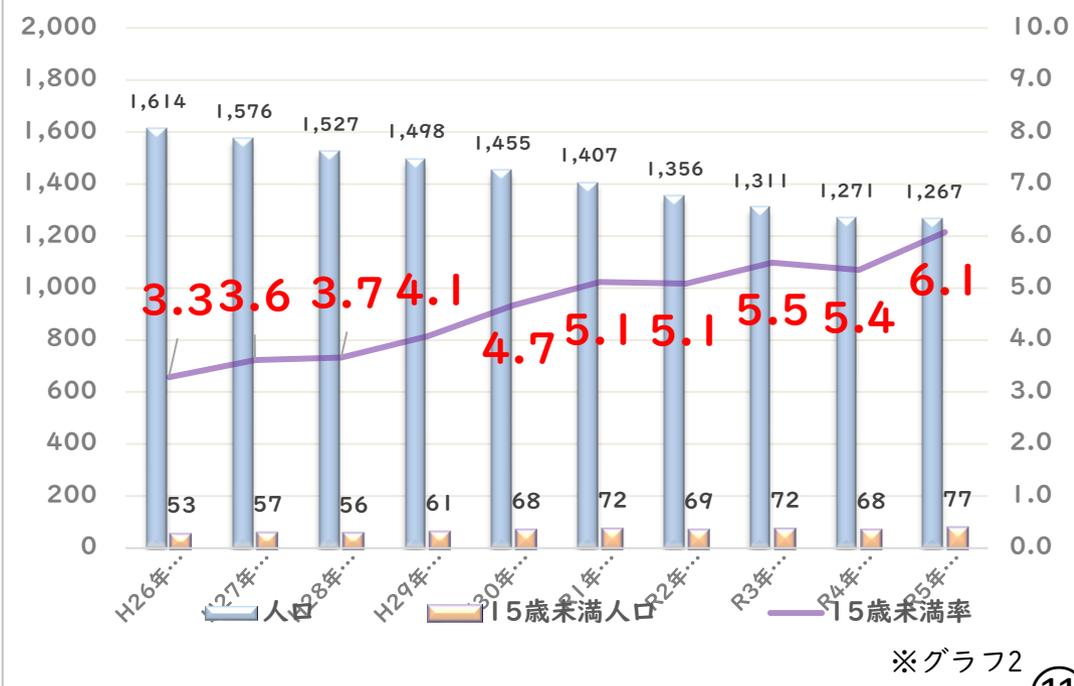
■9年間で**48世帯109人**  
 (うち**子ども35人**)が移住  
 ※グラフ1

■加えて、移住後に誕生した**子どもは9人**

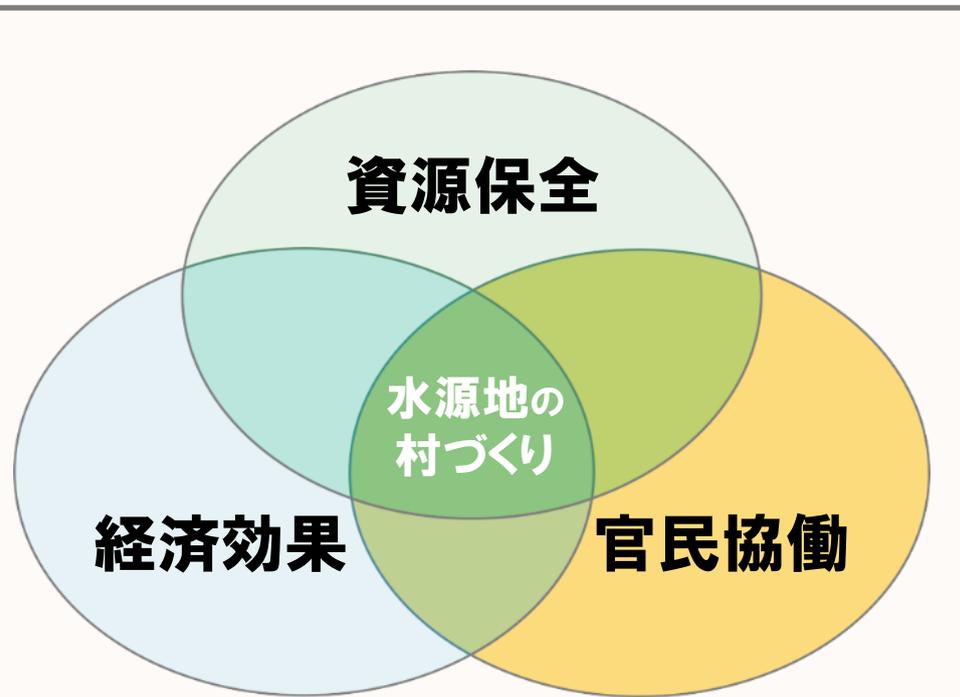
■15歳未満の子どもの人数・割合は**着実に増加**  
 ※グラフ2

2024年レポート  
 消滅可能性都市ではあるものの  
**若年女性減少率が**  
 (20~30歳) **大幅に改善**  
 前回からの改善 29ポイント  
 (89%▼→60%▼)  
 (改善順位 **29位**/1,729自治体)

2050年 想定



# かわかみ源流ツーリズム～資源を活かして住民と共に経済効果を図る～



- ・源流の保全と資源の活用
- ・「資源保全」も「経済効果」も住民が主役
- ・経済効果の創出を狙う

## 具現化に向けた仕組み

➡ 「かわかみ源流ツーリズム」

(2019年環境省 エコツーリズム推進法全体構想認定)

## 「かわかみ源流グループ」

運営母体

環境・教育に強みのある  
公益財団法人吉野川紀の川源流物語  
観光振興に特化した  
一般財団法人かわかみ源流ツーリズム



体験ガイドは52人  
参加者累計608人

村民の  
新たな活躍の場

# 都市にはない豊かな暮らしを築くために

1. 住み心地（居心地）を整えること。
2. 新しい出会い、つながりを求めること。

## 水源地の村づくり（持続可能な未来へ）



### 川上宣言の具現化

#### 住み心地 （居心地）を 整えること

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| ① 「一般社団法人 かわかみらいふ」  | …コミュニティ機能強化、生活支援       |
| ② 「一般社団法人 吉野かわかみ社中」 | …林業の再生、6次産業化           |
| ③ 「事業協同組合かわかみワーク」   | … “複業” による多様な働き方、担い手確保 |
| ④ 「誰もが健やかに暮らすこと」    | …地域で高めるwell-being      |
| ⑤ 「コミュニティバス事業」      | …移動手段の確保、利便性の向上        |
| ⑥ 「おてったいさん制度」       | …行政と住民のパイプ役            |
| ⑦ 「通信環境整備」          | …防災力の強化+テレワーク推進        |

#### 新しい 出会い つながりを 求めること

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| ① 「公益財団法人 吉野川紀の川源流物語」 | …環境保全、流域交流、啓発活動      |
| ② 「水源地の村の観光と交流」       | …観光振興、プログラム企画、広報宣伝   |
| ③ 「川上ing作戦・交流事業の展開」   | …移住定住推進、関係人口の構築      |
| ④ 「地域おこし協力隊」          | …若者定住、地域活性化          |
| ⑤ 「未来への風景づくり」         | …民間企業との共創            |
| ⑥ 「大学との連携」            | …地域の “人財” 育成、交流連携の強化 |
| ⑦ 「かわかみ源流学園の設立」       | …教育の拡充、人づくりは “教育” から |

#### かわかみ源流 ツーリズム

# ① 一般社団法人かわかみらいふ (コミュニティ機能強化・生活支援)

## 事業内容

### ■産官金労福+村民の「一般社団法人かわかみらいふ」を設立(H28)

「村の均衡ある発展」をめざし、村民の日々の暮らしを支えるために行政と関係団体、民間企業が連携してかわかみらいふを設立。

移動スーパーに  
ミニナス=帯同

#### ✓ 買い物支援 (移動スーパー)

地元スーパーと連携し、2台の移動スーパーが村内を回り生鮮食品などを販売。販売場所に村民が集まり買い物やおしゃべりにより新たなコミュニティが生まれる。



#### ✓ 買い物支援 (コープ宅配)

ならコープの商品をご自宅まで個別配達。配達員が家庭を訪れ家の様子や会話を通じて高齢者の見守り活動も実施。



#### ✓ 見守り活動(コミュニティ+事業)

移動スーパーに看護師・歯科衛生士が同行。健康状態の観察や栄養食事指導、健康相談など健康づくりや生活をサポート。

24人の村民が活躍！  
1,200人の村で  
2億3千万円の売り上げ！



① 一般社団法人かわかみらいふ (コミュニティ機能強化・生活支援)

■ 東部地区の公共施設を「**小さな拠点**」としてリニューアル

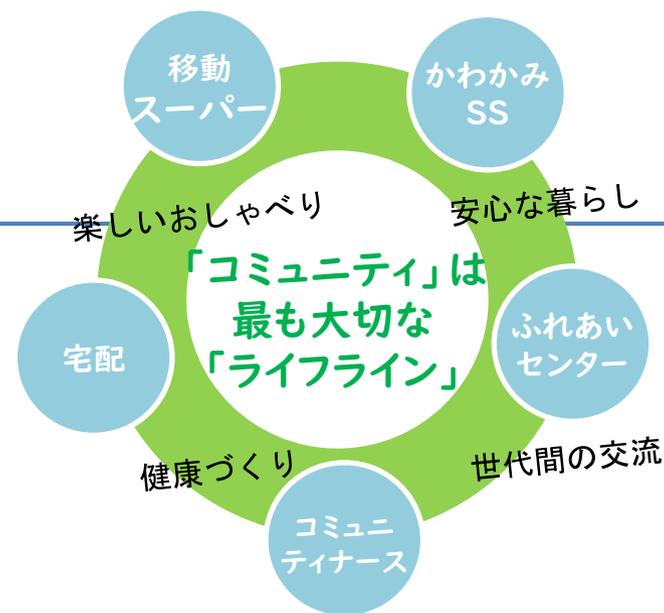
ふれあいセンターを改修し、「コミュニティカフェ」・「医師による巡回診療」・「健康体操やカラオケ活動等のサークル活動」を展開し、誰もが気軽に集まれる**コミュニティの場**を創出。

■ かわかみSS (サービスステーション) の運営

後継者がなく、廃業予定であった村内唯一のガソリンスタンドを継業し、ガソリン等の給油や灯油の配達等の生活インフラを確保。新たな**雇用の場の創出**・**地域内経済循環**に取り組む。

■ ニコニコ号 (無料デマンドタクシー) の運行

自宅からバス停まで無料送迎を行うニコニコ号の運行を受託。  
**村民の生活の足の確保**と**コミュニティバスの利用促進**を図る。



④ 誰もが健やかに暮らすこと (地域で高めるwell-being)

基準介護保険料 (月額) 5,000円

福祉の川上モデル

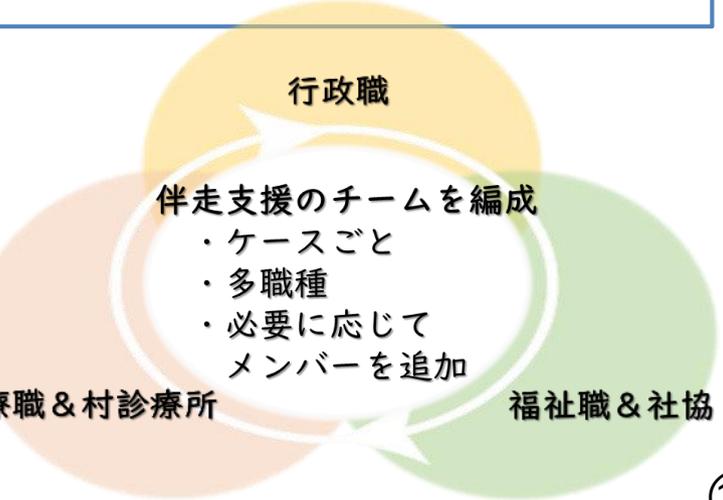
◆**県内初**の取り組みとして重層的支援体制整備事業を令和4年度より開始!

- ①多職種による地域巡回支援 (看護師+理学療法士+歯科衛生士)
- ②分野横断他機関の支援会議を毎月開催 (役場、診療所、社協、保育園、かわかみらいふ)
- ③チャットを活用した情報共有
- ④住民の自主的な活動を支援 (地域づくり)

らくらく元気塾・OB塾も継続中



積み重ねてきた取り組みと国の新規事業のマッチング



コミュニティーがいつもの健康状態を把握

④ 誰もが健やかに暮らすこと (地域で高めるwell-being)

子育て支援

◆保育園・かわかみ源流学園がR6年4月開校

- ・こども家庭センターや学童保育所を併設
- ・助産師等が常駐し子育てに関する相談や子育て世代の集まる場所を充実

◆令和6年4月

「こどもまんなか応援サポーター宣言」

保育園児数が平成26年から増え続けており 9人→31人と**3.4倍に!**



充実の子育て支援

結婚祝い金 **10万円**

結婚新生活にかかる費用を助成 **30万円**

こども祝い金(0, 1, 2歳) **30万円**

生後10か月からの**一時預かり保育利用料無料**

**保育料全年齢無料**(満1歳から入園できます)

**医療費無料を高校生まで拡大**

**小中学校教材費・修学旅行費無料**

習い事費用を助成 年額**6万円**

子育て応援手当(高校生対象) 年額**6万円**

高校通学費用を助成 年額**10.2万円**

高校卒業までインフルエンザ**予防接種費用無料**

住宅の新築やリフォーム補助 上限**200万円**

### ③ 川上ing作戦 (移住定住推進)

#### 事業内容

水と人が「澄む村」  
～自然あふれる村で子育てしてみませんか～

2014年から**109**人  
(全村民の10%弱)  
移住実績!

■ 2013年より「定住」「移住」を重点施策に取り組みはじめた「川上ing作戦」。

✓「**職**」の相談から「**住**」の紹介まで、**暮らしをバックアップ**。

空前の  
**ベビーラッシュ!!**

村での暮らしの支援に取り組んだ結果、若者世代が定着し、

子ども(0～14歳)の人口は、2015年**59**人が2020年に**69**人に!

■ 「住まい」「仕事」「暮らし」「子育て」「教育」の5つの施策をワンセットとして  
子育て世帯に向けての情報発信を強化。



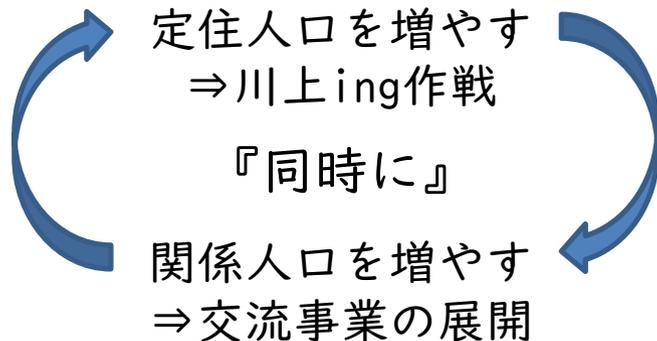
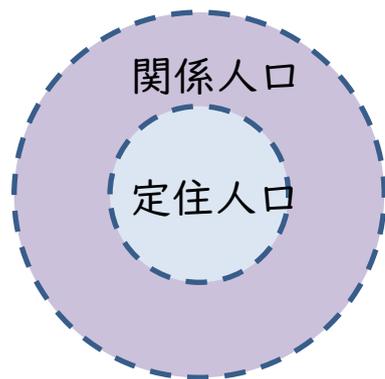
川上村移住・交流ポータルサイト



## 交流事業の展開（関係人口の構築）

### 事業内容

- 交流事業を通じて新たな出会いやつながりによる**関係人口の創出・拡大**。  
**地域外の人と継続的かつ多様な形で関わる**ことで村のファンのネットワークを広げつつ、村内外で活躍する人を増やし、村づくりの担い手の活力を得る。
- ✓ **ふるさとワーキングホリデー**  
村で働きながら遊び「暮らし」を体感する2週間。人との交流を通じて村民参加者双方にとって自らを知る。
- ✓ **大学連携事業**  
村の課題の解決策を提案する問題会計型学習。オンライン学習とフィールドワークで解決策を練り上げる。
- ✓ **オンラインコミュニティ かわかみらい の運営**  
関係人口の人たちを中心にオンライン上にコミュニティを形成。月に1度対話を実施。  
リアルイベントと組み合わせ、関係人口が育む 川上村の価値創出 に取り組む



## ④ 地域おこし協力隊 (若者定住、地域活性化)

### 事業内容

- 村内に移住してさまざまな魅力を掘り起こし、  
地域資源を魅力的に利活用する意欲のある**若者**を募集。
- ✓ これまでの採用は46名。現在、現役隊員は10名。OB・OGのうち30名が定住。
- ✓ 村を知り、人と関係を築き、それぞれの起業に向けて展開。
- 毎年、活動報告会を開催  
令和4年6月には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下とオンラインでご接見



彼らの“**行動力**”は、村民や役場職員に“**大きな刺激**”



## ⑤ 未来への風景づくり事業 (民間企業との共創)

### 事業内容

- 大滝ダム事業に伴い「白屋」集落は全戸移転を余儀なくされた。  
かつてこの地にあった人の暮らしのぬくもりを、植栽による景観づくりをとおして再生するプロジェクト。
- ✓ 企業・団体が区画ごとに植樹と管理。
- ✓ ここを起点に、村の課題解決へ共創関係の構築
- ✓ **村と企業、企業と企業の交流、享受し合える**関係性も展開。
  - ・ 毎年秋に「ふれあいまつり」を開催。村・企業・村民の交流の場
  - ・ 大和ハウス工業(株)は、創業者石橋信夫氏の生誕の地である寺尾に“石橋信夫翁の碑(胸像)”が令和2年9月9日に完成。人財教育の一環で活用。



将来のイメージ図



#### ◆協賛企業・団体 (R7.1月現在)

大和ハウス工業、近畿日本鉄道、佐藤薬品工業、奈良交通、鹿島建設、市民生活協同組合ならコープ  
奈良中央信用金庫、奈良ダイハツ、イムラ、奈良県農業協同組合、奈良トヨタグループ  
ガイドードリンク、損保ジャパン日本興亜、タカトリ、不二熱学グループ、東京海上日動火災保険  
森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟 (17社)



## ⑥ 大学との連携（地域の“人財”育成、交流連携の強化）

### 事業内容

- 相互の資源を持ち合い、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある地域社会の形成と発展に寄与するとともに、**関係人口の創出**をめざす。

- ✓ **連携協定締結：大阪工業大学(2010年) 奈良女子大学(2017年)**  
**北九州市立大学地域創生学群(2022年) 人間環境大学(2023年)**

具体連携：新入生オリエンテーションの実施、旧東小リノベーション  
ライブカメラ設置、協働授業の実施、特産品開発 等

### 木匠塾(1998年始動)

- ✓ **“源流学”の実施**(大阪工業大学) 2020年から実施

座学とフィールドワークを組み合わせた課題解決型学習

水源地の村づくりの理念・取組を座学で学び、  
フィールドワークで課題に接し、解決策を提案。

- **地域づくりインターン(1997年～)**

大学生を中心に、2週間地域に入り、五感で暮らしを体感地域と学生の継続的な交流(関係の継続)をめざす

～日本建築学会教育賞(教育貢献)を受賞!～

間伐材の活用と創造を通して

木や自然を学ぶ「木匠塾」

吉野林業発祥の地である川上村を拠点に、間伐材を使った制作物など実際に木に触れる創作体験を通じて、日本の林業や山村での生活、木という素材が持つ可能性について学ぶ教育プログラムを展開。大阪工業大学、大阪芸術大学、近畿大学、滋賀県立大学、奈良女子大学の5大学が参加し、21年間で参加した学生はのべ1,400人を超える。



# ⑦ かわかみ源流学園 (義務教育学校) の設立 “村づくりは人づくり 人づくりは教育”

## 事業内容

- 「ふるさとに学び、力強く自らの未来を切り拓く子どもの育成」  
「どんな時代（社会）にも対応できる生きる力を育む学校」

スローガン  
**15の春は  
正夢に**

✓ 節目を大切に、垣根はいらない

✓ 川上村公共塾の開設 総合的な学習の時間を活用した「ふるさと力」「人間力」の展開

**確かな  
学力**

義務教育の無償化  
指導主事の村費雇用  
タブレット端末の全児童生徒配布  
ALTの村費雇用  
中学生の海外語学研修<ハワイ>

**郷土愛**

村内各地が学びのフィールド  
公共塾の開設「ふるさと力」「人間力」  
水のつながりプロジェクト

主な取組  
公共塾の開設  
一貫教育体制の強化  
子育て支援の拠点化

習い事支援  
ESDの実践  
～吉野川上下流域交流～  
ICTを活用した協同学習 遠隔地授業

**豊かな  
人間性**

スキー教室  
村民大運動会（保小中村民 合同）  
部活動外部指導者  
部活動全員参加

**たくま  
しい  
心身**

・12年間の見守り  
・園長や指導主事の  
配置

保・学校  
教職員の  
連携を強化

更なる**連携の強化**



学校・家庭  
・地域の連携  
を強化

・住民交流の場  
・地域力や地域の知恵  
を得る場

# かわかみ源流学園の様々な顔

令和6年4月開校！

## ～学校自体が教材～

高原地区村有林にて、新校舎に使用する建材の伐採見学会を実施。

自分たちの校舎のルーツと、村や吉野林業の歴史の重みを知り、郷土愛を育んだ！



樹齢約400年の杉「歴史の証人」を活用した学年の室名札を制作。自然の循環をコンセプトにしたデザイン。



他にも仕掛けは色々！！

- ・歴史の証人を活用したデザインウォールを昇降口に設置。
- ・防火扉を活用したデザインシート等々。

## ～子育て支援の拠点化～

やまぶき保育園に併設して「こどもセンターあま☆ごん（こども家庭センター）」を設置。

助産師などの専門職員を配置し、子育て親子の交流の場・専門的な相談支援の場として機能。

また、施設全体が公園として機能を持ち、かわかみテラスの2階に接続された大型遊具や園庭内の複合遊具、築山は休日も開放！



川上産吉野材をふんだんに使用した木造3階建！！

かわかみ源流学園

かわかみテラス  
世代間交流拠点

こどもセンター  
あま☆ごん

やまぶき保育園（木造2階建）





# 水源地の村づくりの目指すみらい

みんながHAPPY!!

源流を愛し、守り多様な価値観が共生する村

## 1 「源流の危機」 = 「国土の危機」

⇒国民共有の課題

気候変動は進み、災害は激甚化

⇒防災・減災対策は 「源流保全」 がスタート

## 2 源流の使命と役割を果たし、伝えていく

⇒人口や経済の大きさだけで語れない `価値、あり。それらを磨き、発信する。  
「都市の対極にある価値」 生きる力 SDGs ESD

## 3 越境の先にある官民共創のステージへ

⇒源流の基本的価値観を一にしたうえで、多様な価値観の共生する村  
越境した経験・体験を通じて、多様な人財が活躍し、ともに創る未来の公共

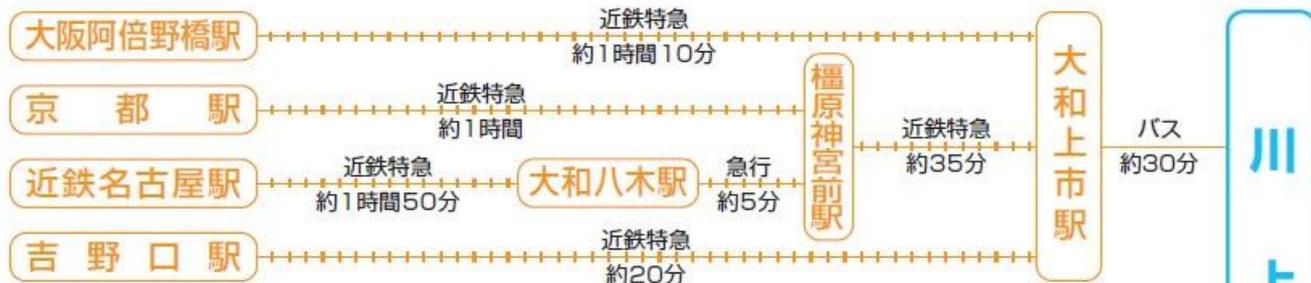
座右の銘 「民 信なくば立たず」



# 奈良県川上村へのアクセス



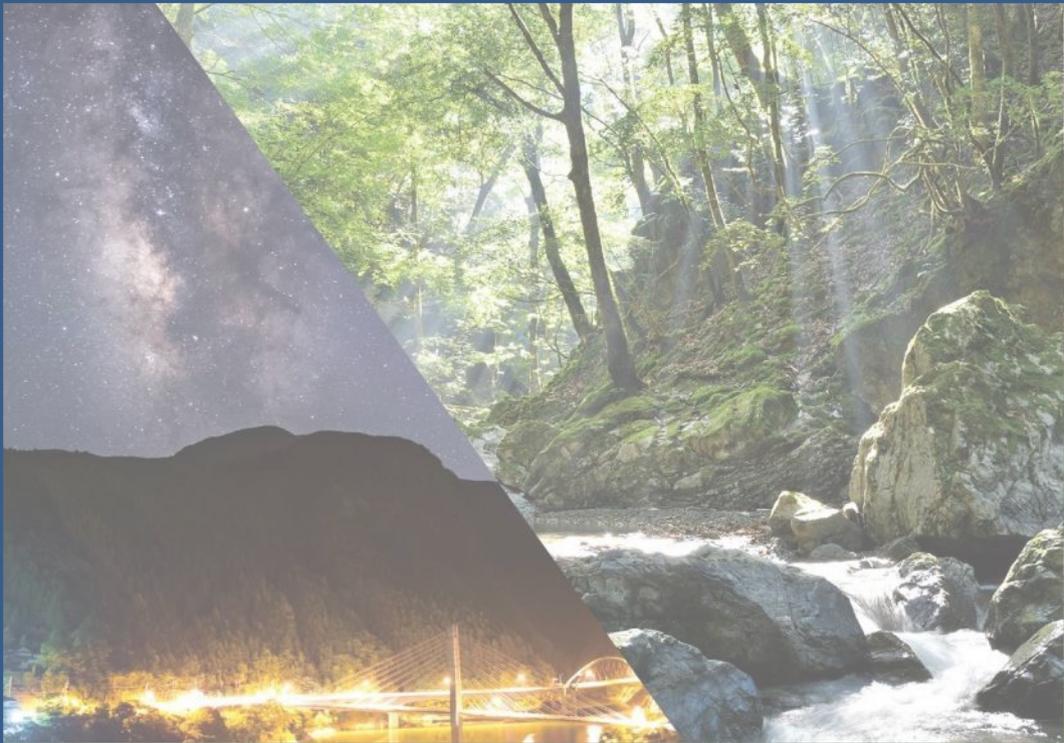
## 近鉄電車でお越しの方



## お車でお越しの方



# 大阪から約1時間半



ご清聴ありがとうございました!